

右ハ去ル明治七年八月同八年三月同十一月同十三年七月

官國幣社、御加列有之度再四願書ヲ捧呈シ爾來御沙汰

ラ一日千焔ト伏望セシ處明治十五年七月願之趣難及詮

旨御旨令持来ス右ハ身造反廢上未仕痛

文徳天皇御實録ニ顯載、御社柄モ古代ノ如キ御崇敬

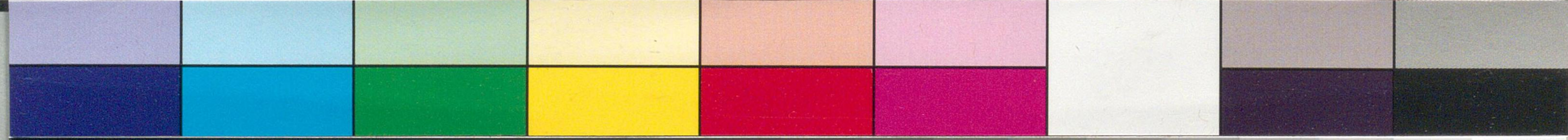
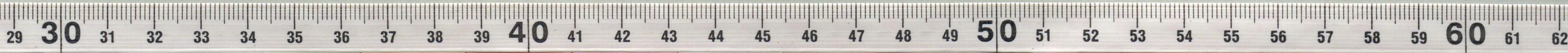
及シ難キハ元是御成規ノ有ルヲ官國幣社ハ御増加相

ラケル儀上切ニ忌察奉リ妾ニ往事ヲ追懐シ空リ恨歎ヲ將

起シ荏苒歲月ヲ経過セシニ元明治十五年四月羽後

秋田郡寺内町鎮坐古四王神社ハ國幣小社ニ列セラレ同々

月十六日東京府社日枝神社ハ官幣中社ニ列セラレ同年



十月相模國三浦郡鶴岡八幡宮の國幣中社に列せらる夫が  
此御由緒アル御社柄ハ追々官國幣社に御進列せらる

全り御成規ニテ御加列ナラサル者ハ之ナリ畢音 秀實

ノ是ラサルヨリテ願意透達セサルヤト自顧ラ愧赧ニ堪

鄙賤ノ私葦妄ニ口端揚ルハ憚多キ事ナカラ前書御筆

拮セラレシ御社如キハ源家累代ハ武將湯御を處當社具

文德天皇天安元年八月官社に預ラレシヨリ

醍醐天皇延喜御式ニ名神大社に列ナリ案上ノ幣ニ預

給ヒ 朝廷御代々尊崇アツラレシ所ナリ古ハ本社基

趾廣リシテ所攝小社凡四十餘所神地千石ニ下ラズ祭祀ノ

禮ニ由豊有ナリシカ永祿中平田氏治乱ニ兵變ニ罹リシヨリ神地ハ

武人ノ侵ス處ナリ神戶表徴シテ僅小祠ヲ海濱ニ設テ歲時ノ

祭ヲ致シナリキ享元銘三年七月己酉贈大納言光國卿新

地ヲ相シ社ヲ建テ遷官ヲ行ヒ給ヒシ等委曲ハ正徳五年八月中納

言源細佐卿他日興隆證ニ備ヘト撰著シテ納メシ本社縁

起ニ詳ナリ且後天保軍中贈大納言源齋昭卿更ニ神地ニ

附シ敷田廻拜シテ弓刀ノ幣ヲ捧ル且禮ヲ恭キ且敬ノ意

今尚父老傳ヘ言テ感涙ヲ下ス至シリ夫如此キ崇敬ノ意キ

古ヨリ朝廷ニ於テ尊崇アツラレシ大社奥陸ヲ海志シ給

ナリ近來本居宣長平田篤胤等古代ノ事蹟ヲ著述スリ

ニ及テ往々當社に靈徳ヲ賛揚シテ神代ノ證ニアケラレタリ  
夫大己貴神ヲ祀レル出雲ノ大社ハ昔能知ル所ナルモ古  
名神ヲ祭レル本ノ社ハ該社外未タ聞ガレナリ故ニ明治ハ生  
七月東京府社神田神社初官本居豊穎ヨリ且節ノ儀  
願シ分靈ヲ奉仰セラシテ其社合祀セラル明治十二年四月  
岐阜縣下美濃國惠那郡苗木村初官水野忠鼎上野村  
戸長大山半古寺ヨリ又分靈遷坐式ヲ其廳請願シテ奉仰  
鎮祭セラル且他招祭ヲ請求スル者モ亦枚擧ニ暇アラス且皇學  
篤志ノ偉ハ數百軍ノ山海ヲ凌キ社前ニ參拜シ當社未タ縣社  
ノ列ニ置セラルヲ相歎キ秀實ニ向テ懇迫勸誘シテ止ス秀實

頑石朽株ナルモ學思彷徨對テ措リ能ハス昨明治十五年十  
二月常磐神社ハ縣社ヨリ別格官幣社ニ進列セラレシヲ奉  
承シ毎夏ニ 聖恩ノ優渥ナル波及シテ至ラヌ所ナキヲ歎  
欣踊躍シ豊ユス又感激之情ヲ當社ニ起シ中夜起テ復寢  
ル能ハス抑當社モ明治十五年七月年々例祭之時官國  
幣社ニ準ヤラシ奉幣舉行アラセラル旨傳命ヲ蒙ルト雖未  
縣社列ニ置セラルハ鄙意ヲ安セサル處ナリ是以日夜焦  
苦慮鄙拙ヲ志シ軼スハ觸骨上陳ス所以ナリ往時ヨリ  
懐スレハ旧水戸藩世々篤ク該社興隆ニ志セシモ時世ニヒ  
レテ空リ筆ヲ本縁ニ止ラル今也水戸藩諸公ノ待アリテ

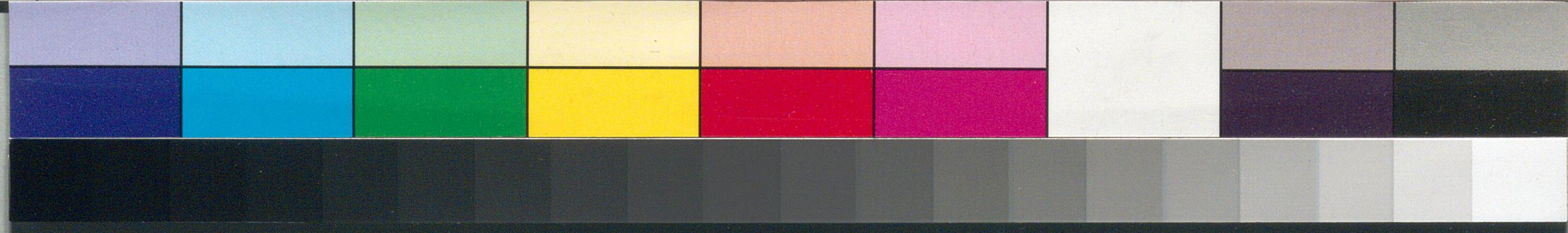
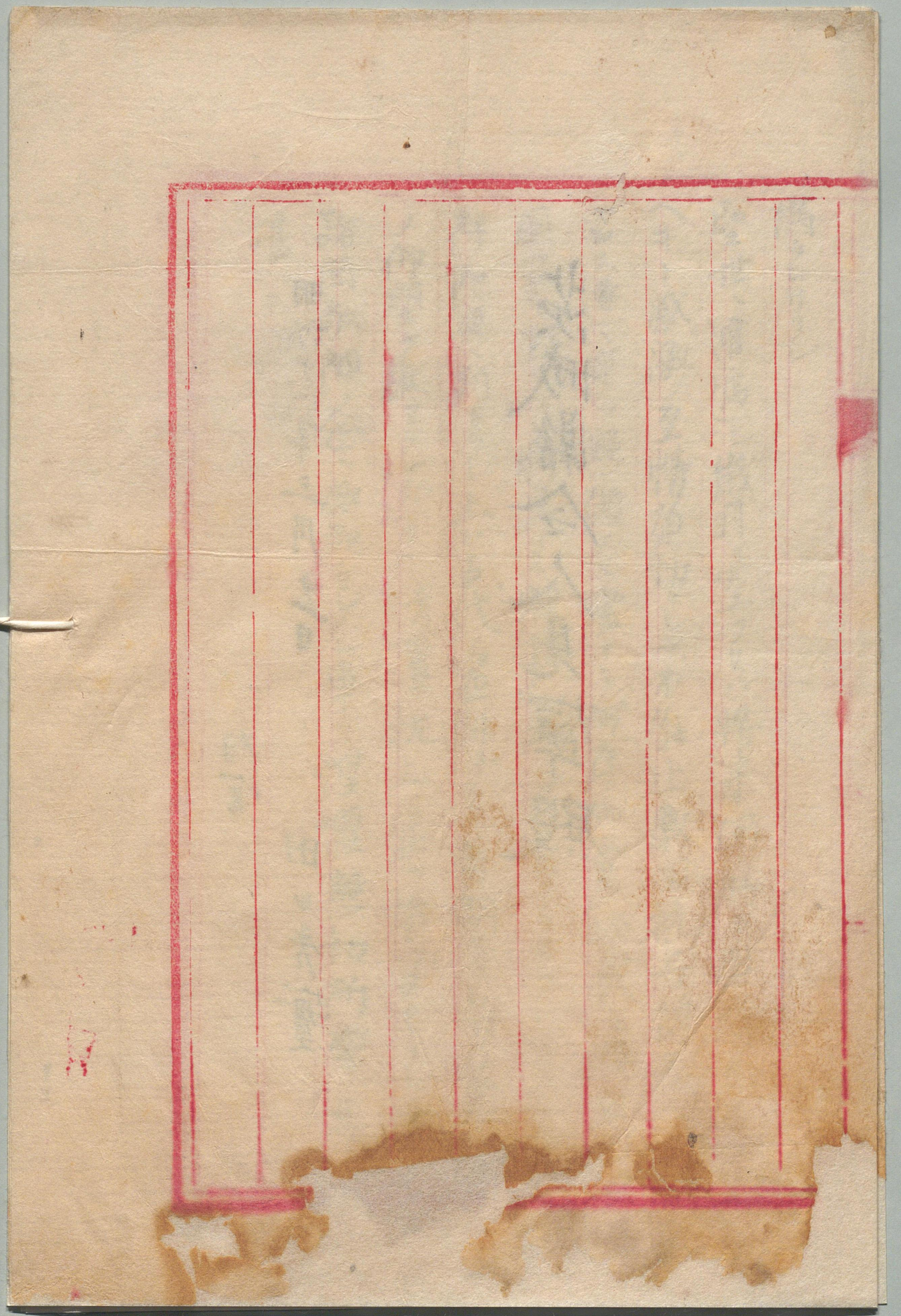
得レサリ

聖世、(清) 漏レシ歲月、空フセハ、将来、何時カ、凶降、期アル  
ヘキト、感激、至情、迫切、シテ、不能、止、敷、固、抗、上、悖、多キ、エ  
者、ス、遂、重、ラ、懸、願、スル、處、ナリ、何、存、御、寶、録、載、テ、明文、マ  
國、家、對、セ、ラ、レ、特、異、ナル、神、勳、ヲ、再、ヒ、追、崇、ア、ラ、セ、ラ、レ、官、國、幣  
社、祀、典、ニ、列、セ、ラ、レ、上、古、代、靈、跡、ヲ、著、明、セ、ラ、レ、下、ノ、衆、庶  
ノ、仰、望、ヲ、厭、セ、ラ、レ、行、ク、ハ、秀、實、之、抗、上、罪、ヲ、憐、愍、セ、ラ、レ、(哀、ア、ハ  
諸、國、敬、神、念、ラ、興、起、セ、シ、之、事、ヲ、惶、懼、懇、切、祈、望、ヲ、至、リ、  
堪、一、ス、謹、言

初官

明治十六年三月十一日 田口秀實

茨城縣令人見寧殿



国立国会図書館 川村正平関係文書 168-3